

海況速報

平成 16 年度 第 2 号 (通算 No.98)
平成 16 年 6 月 22 日
北海道立水産試験場



内容についてのお問い合わせは
中央水産試験場 海洋環境部
Tel 0135-23-4020

5 月下旬から 6 月中旬の海況

日本海海域

対馬暖流落ち着く

前回 (4 月) に非常に優勢であった道西日本海の対馬暖流は、流量、水温ともにほぼ平年並みまで落ち着いて来ました。岩内西方沖と奥尻島南方に暖水渦が見えます (例えば、100m 層水温 8 以上)。対馬暖流はこれらの暖水渦の西側を、武蔵堆西方へ向けて北上しています。水温偏差について見ると (水温偏差表参照) 50m 層以深では、留萌西方から北部の日本海では水温が高めとなっていますが、全般的に平年並みのところが多くなっています。

余市における 4 月下旬以降 6 月中旬までの沿岸水温 (旬平均) は、4 月下旬から 5 月上旬まで、「平年並み」で推移し、5 月下旬に「かなり高い」となりましたが、その後は「やや高い」～「平年並み」で推移しています。

道東太平洋海域

暖水塊そのまま

道東沿岸は親潮でおおわれ、沿岸親潮 (*1) の 50m 層で 2 以下の部分は、道東沿岸から襟裳岬まで断続的に見えています。また、前回 (4 月) に引き続き、41-00N、146-00E 付近を中心に暖水塊が見えています。親潮はこの暖水塊と津軽暖流の間の 144E 付近を南下しています。100m 層より浅いところでは、津軽暖流起源の暖水が襟裳岬南方まで張り出しています。水温偏差について見ると、暖水塊の海域付近を除き、平年より低いところが多くなっていますが、平年値に近く、前回 (4 月) に続いてほぼ平年並みの水温が多くなっています。

道南太平洋海域

津軽暖流系水広がる

道南沿岸の襟裳岬から室蘭の 50m より浅いところでは、沿岸親潮 (*1) に代わり津軽暖流系水におおわれています。100m 層を見ると、津軽暖流は渦モード (*2) ではありませんが、津軽暖流起源の暖水が襟裳岬南方まで張り出しています。この暖水の南側を回って、八戸沖へ向かって親潮系の冷水域が入り込んでいるようです。噴火湾内の 50m 層では、4 以下の沿岸親潮が広がっています。水温偏差についてみると、100m 層より浅いところで平年より水温が高いところが多くなっていますが、全般的に平年並みの水温となっています。

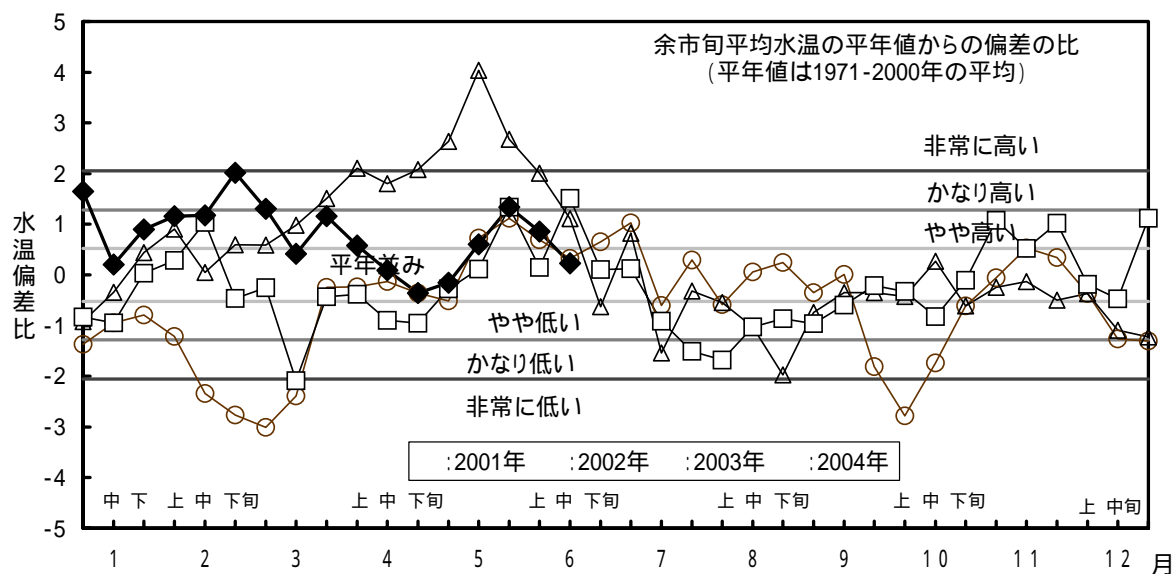
オホーツク海海域

宗谷暖流順調

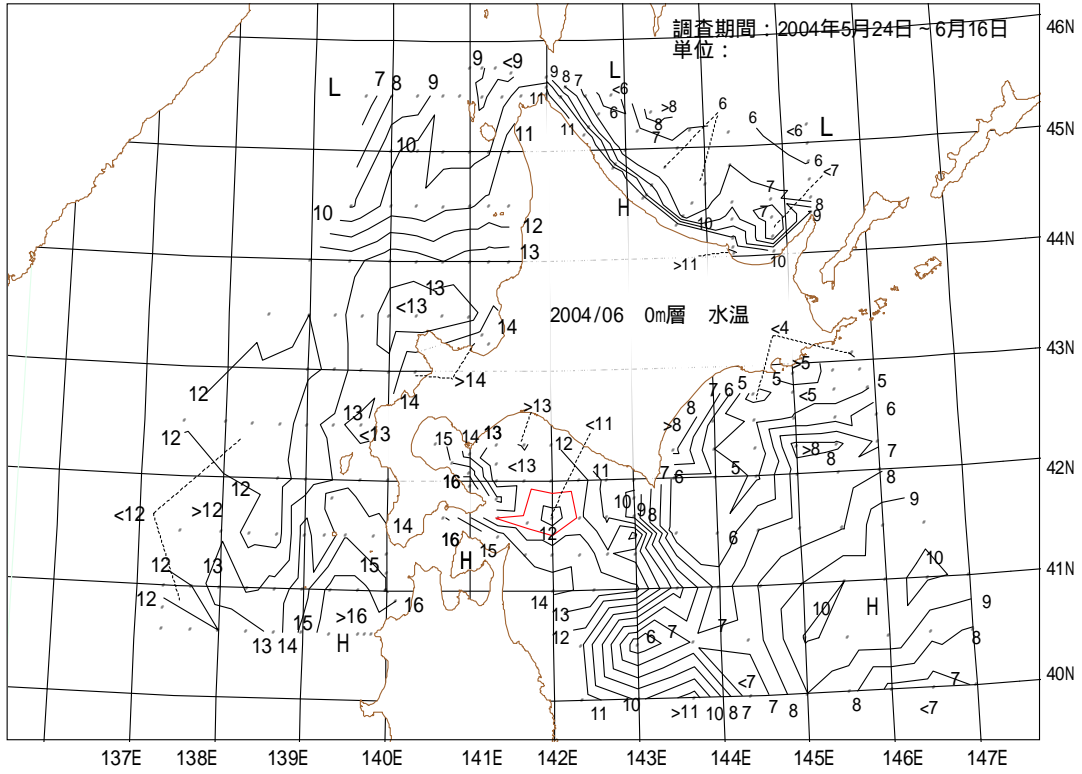
表面水温では、知床半島まで 9 以上となっており、50m 層も知床半島まで 7 以上となっています。宗谷暖流は順調に流れているようです。宗谷海峡東方に表面水温 6 以下の海域があり、塩分値からオホーツク海の中冷水起源の冷水域と判断しました。また、枝幸沖では宗谷暖流の北東沖にも表面水温で 8 以上の暖水域が見えます。水温偏差についてみると、紋別沖の 50m 層で宗谷暖流が沖側にやや蛇行しているため、水温が高くなっているところがありますが、全般的に平年並みのところが多くなっています。

資料	観測期間	観測海域
青森水試（東奥丸）	2004/6/1-6/2	（東北日本海海域）
稚内水試（北洋丸）	2004/5/24-5/26	（道西日本海海域）
稚内水試（北洋丸）	2004/5/31-6/3	（オホーツク海海域）
釧路水試（北辰丸）	2004/5/25-6/1	（道東太平洋海域）
函館水試（金星丸）	2004/6/14-6/16	（道南太平洋海域）
中央水試（おやしお丸）	2004/5/31-6/4	（道西日本海海域）
中央水試（おやしお丸）	2004/6/8-6/9	（道西日本海海域）

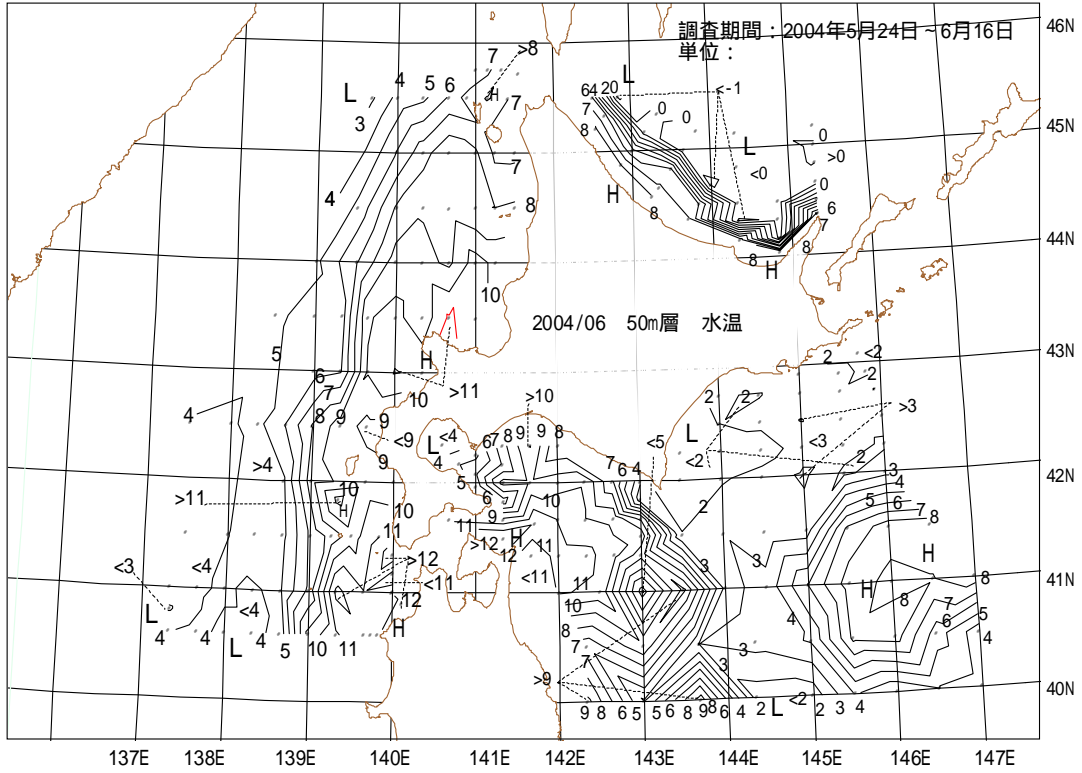
- * 1：オホーツク海の海氷の融氷水を含む親潮として特に沿岸親潮という名前が付けられています。
- * 2：津軽暖流が津軽海峡から襟裳岬まで大きく張り出してから南下している状態を「渦モード」と呼びます。これに対して、津軽暖流が青森県尻屋崎からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下している状態を、津軽暖流の「沿岸モード」と呼んでいます。
- * 青森水試の現在の機関名は青森県水産総合研究センターです。



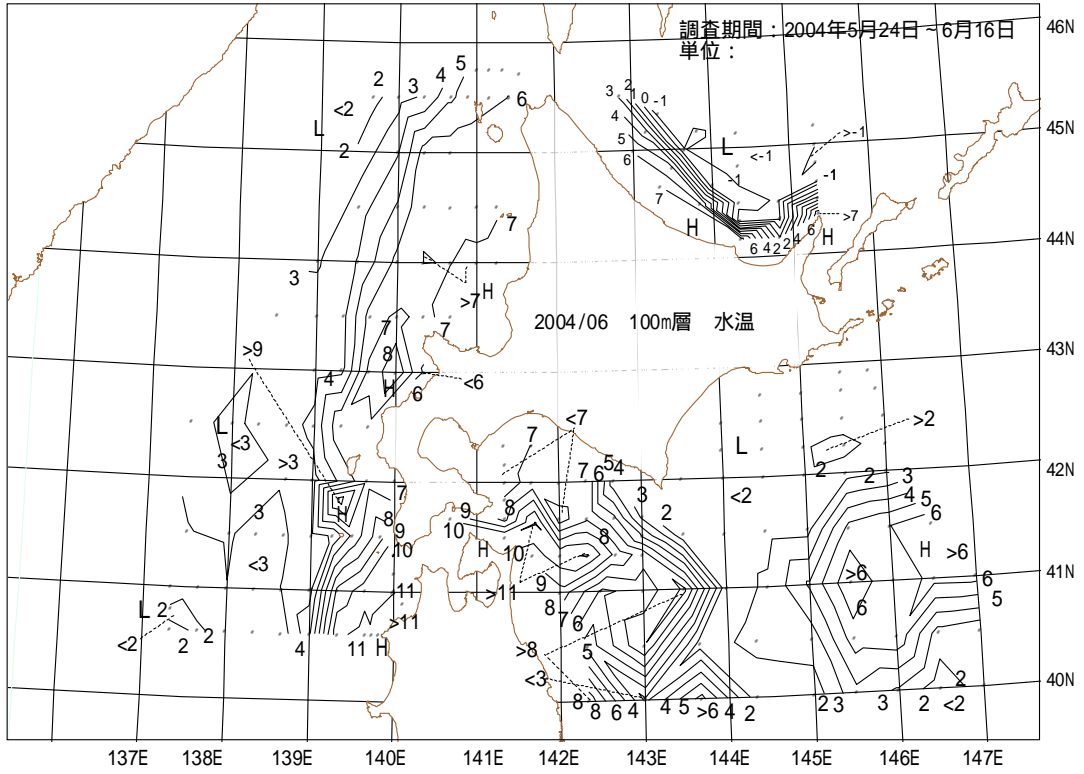
北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報

